

平成 29 年 10 月 21 日

阿賀野市・^{どばしきた}土橋北遺跡(D区)現地説明会

新潟県新発田地域振興局農村整備部
新潟県教育庁文化行政課
公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

1 はじめに

土橋北遺跡（阿賀野市^{ももづ みちした}百津字道下～字ヤチ）は阿賀野川右岸の自然堤防上に立地しています。遺跡周辺は旧阿賀野川が最も内陸に入り込む地域となり、遺跡の南西には土橋遺跡・石船戸遺跡・石船戸東遺跡・石船戸北遺跡など縄文時代後期・晩期の遺跡が多数存在します。本遺跡は新百津橋から東へ 670m に及ぶ長大な遺跡で、^{たんすいぼうじよじぎょう あんのがわちく}湛水防除事業（安野川地区）に伴い平成 24 年度に新しく発見されました。平成 26 年度～28 年度まで阿賀野市が発掘調査を進めてきましたが、平成 29 年度は阿賀野市の発掘調査と並行して、D 区と呼称している最東端の調査区を新潟県が発掘調査しています。

2 発掘調査の概要

調査面積は延べ 7,920 m² で 3,960 m² の上下二層調査となっています。下層は縄文時代後期（約 3,500 年前）、上層は縄文時代晩期（約 2,500 年前）です。

遺構・遺物の多くは調査区の西側で見つっています。西側に小河川（SR10）が流れていますが、この小河川は縄文時代から平安時代ころまで継続して流れていたようです。最も新しい時期には、大規模な河川の氾濫によるとみられる大量の流木で埋め尽くされていました。また、クルミやトチ（湿地や河川敷など水辺を好む）なども多数出土しています。この災害で両岸にあった縄文時代の遺構が破壊されているようで、小河川の斜面から底面にかけて縄文時代晩期の土器が多数出土しています。かろうじて残った縄文時代晩期の複数の土器集中区や炭化物集中区・炉跡・埋設土器などが見つっています。

埋設土器は 5 基見つっています。内訳は浅鉢を入れたもの 3 基、深鉢を入れたもの 2 基です。口縁部が欠損しているものがほとんどです。意図的に打ち欠いた可能性もあります。深鉢の 1 基は口縁部を下（逆位）に入れられていました。これらの埋設土器を断ち割ってみたところ最下部に白色の粘性土が入っているものが 3 基ありました。このような白色の粘性土は周辺で見つっておらず、どこから持ち込んだものか現段階では不明です。埋設土器に入っていた土は今後科学分析を行う予定です。

小河川から東側は西側と様相が一変し、東に向かい緩く傾斜しており縄文時代後期から晩期までの約 1,000 年は人が住むには適さない湿地であった可能性があり、遺物包含層は黒色粘質土で腐植土が多く含まれています。東側で見つかった遺構は、縄文時代晩期の土坑と後期の土坑・石組、晩期・後期の土器・石器がわずかに出土しています。石器は叩き石や磨石などの礫石器が主体です。湿地とみられる範囲は長く耕作には適さなかったようで、現在の「ヤチ」という小字名に引き継がれたようです。

3 まとめ

土橋北遺跡（D 区）の主要な生活面は縄文時代晩期と後期の二時期となります。集落の存在を示す竪穴・掘建柱建物等は明確に見つっていませんが、それぞれの時期に小河川の周辺を中心に野営等の活動痕跡が見つかりました。遺構・遺物の分布状況から遺跡の範囲は小河川の南側にさらに広がるものと推測しています。

今後、周辺の同時期の遺跡の在り方とともに調査成果を精査し、遺跡の性格を明らかにしていきたいと思ひます。



埋設土器 1



埋設土器 5



埋設土器 7



埋設土器 8



縄文時代晩期の土器



小河川 流木出土状況



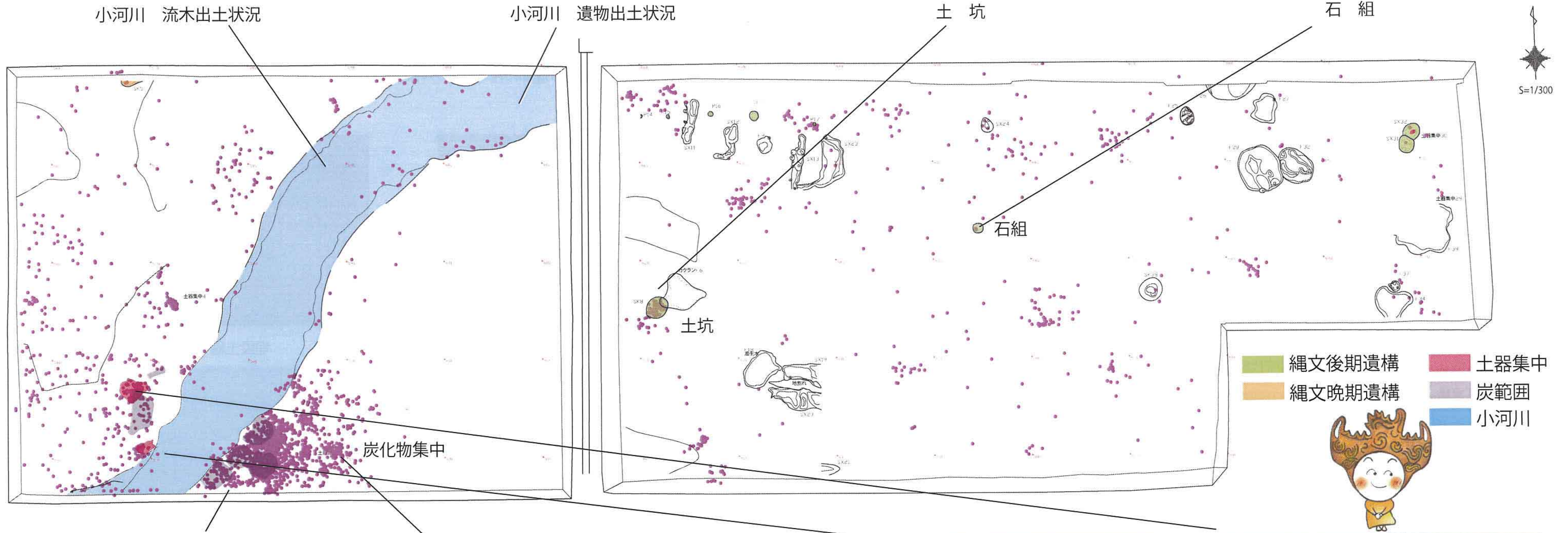
小河川 遺物出土状況



土坑



石組



炭化物集中



土器集中1



土器集中2



土器集中3